

# 令和5年度 札幌大谷第二幼稚園学校評価

## テーマ

本園の『チーム保育』の考え方を知り、日々の保育に理解を深める

### 1、テーマの趣旨

札幌大谷第二幼稚園における令和5年度学校評価は、「学校関係者評価」に取り組んで13年目となりました。

保育・教育の基礎となる部分と同じことや本園の学校評価委員の先生方とオアシス保育園の（姉妹園）の学校評価委員の先生方が同じということもあり、合同で学校評価に取り組みたいと職員間で話し合いを重ねてきました。

### 2、 令和5年度学校評価の実施手順等について

今回実施する学校評価の手順等は次の通りです。

① 重点目標の設定、評価項目の設定、教職員の周知	令和5年10月
② 学校評価委員会の開催	令和5年11月
③ 教員自己評価の実施	令和5年12月
④ 保護者アンケートの実施	令和5年12月
⑤ 幼稚園自己評価の実施	令和6年1月
⑥ 学校評価書報告	令和6年2月

尚、この自己点検結果は、学校評価委員会報告と共に、学園理事会に報告されその後、概要を公表する予定です。

### 3、 令和5年度学校評価のテーマ（重点目標）と評価項目

#### (1) 重点目標

本園の『チーム保育』の考え方を知り、日々の保育に理解を深める。

※本園の『チーム保育』とは複数担任制とは異なり、役職や職種等の垣根なく園を一つのチームとして全教職員で全園児に関わるという保育方針のことを指しています

## (2) 評価項目

- I 『チーム保育』の考え方を理解する
- II 『チーム保育』に適した環境を整える
- III 『チーム保育』による保育効果を高める

### 4、点検結果—現状・課題・改善方向

#### I 『チーム保育』の考え方を理解する

評価項目Iは、「とても理解している」「理解している」に9割の職員が答えています。『チーム保育』に取り組んで良かった点については、「様々な視点で子どもの成長を見守ることが出来る」「複数の保育者で活動に取り組める」「自分の視点だけではない子どもの姿を知ることが出来る」等、複数の目で見守ることが出来るので、子どもがより自由に活動でき、偏ったとらえ方にならないと感じています。保護者も同じ様に「色々な先生と交流し学ぶことが出来る」「複数の大人が見守ってくれていることで安心感がある」と答えています。また、職員間では「苦手をフォローし合える」「色々な保育者の考えや意見を参考に出来る」「活動や保護者対応について相談したり、一緒に関わることが出来る」と感じている一方で、『チーム保育』の欠点への理解は4割が「理解していない」と答えています。

「人任せ」になっていたりと、長所としてとらえられていた「複数の保育者の目」が安心になり「見逃してしまったり、責任の所在が分からなくなる」ということに繋がっているように思います。

以上の様々な面から考慮し、B+と評価します。

#### II 『チーム保育』に適した環境を整える

「職員同士の良好な人間関係を築くよう努めていますか」「職員同士の情報共有を自分から行っているか」の問いに9割の職員が行っていると答えています。「子ども達の発達段階に応じた保育・教育を理解し、保育に活かしているか」の問いには全職員が「理解して、活かしている」と答えていることから、職員や子ども達に関わることにについては相手を理解しより良い関係を築いていきたいという思いがあります。その反面保護者に対しては、「自分からコミュニケーションをとる」ということにおいて5割の職員に消極的な面がみられました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行して間もないこともあり、保護者への声掛けや対応の仕方に戸惑っており、手探りの職員も多いのかもしれませんが、保護者は、「職員の子どもに対しての話し方や接し方を感じる」「子ども達の発達段階に応じた保育・教育に努めている」の問いには10割の方が答えてくださったことはとても嬉しく思います。

以上の面からA-と評価します。

### III 『チーム保育』による保育効果を高める

「他者の意見に耳を傾けているか」「お互いにフォローしあっているか」「自分の得意なことを発揮できているか」「全体への気配りを心掛けているか」の問いには 10 割の職員が「出来ている」「そう思う」と答えています。相手を受け入れ、自分も認められることで良い『チーム保育』が行え保育効果を高めていることを実感し、一人一人が実践していることが保護者の方に「チームとして団結し取り組んでいる」「職員の個性が発揮され良いチームが形成されていると感じる」と伝わっているのだと思います。これからも、思いやりの心を忘れず「共に育っていききたい」という思いに期待し A と評価します。

### 5、全体評価

本園で取り組んでいる『体験型保育』での中心となる園外保育や『インクルーシブ保育』においては『チーム保育』は切り離せないものだと思います。

複数の保育者で活動に取り組むことで多くのメリットがあり、リーダー、サブリーダー、アシスタントと3つの役割を交代しながら担当することで他の保育者の保育方法を身近に見て学ぶことが出来ます。また、自分の保育を見てもらうことでアドバイスをもらい足りない能力を深めることも出来ます。多くの目があることは子ども達や保護者、職員にとって「安心」にも繋がります。その反面「コミュニケーションが少ないと責任の所在が分からなくなる」「チーム保育の仕組みがしっかり整理されていないとクラス運営が回らない」などのデメリットが生じてきます。しかし、『チーム』として園が回るように自ら発信し「相手を理解しよう。理解したい」「お互いにフォローしていききたい」と思う職員の気持ちが今回の自己評価を通して見えたことが大変嬉しく、感謝しかありません。

以上の面を考慮し、全体の評価を A- とします。

この事を踏まえ今後も職員一人一人が意識を持って取り組み、研鑽を積んでいくと欲しいと願っています。

### 6、最後に

「1クラス1担任制」の体制の園が多くある中で、本園は早い時期から『チーム保育』を取り入れてきました。その根底には、保育者だけではなく園の職員や保護者も『チーム』として「子ども達を見守り、共に学び育ちあう」という願いがあったからだと思います。現在でも、給食や花まつりなどの行事に全教職員が関わったり、保育活動に保護者が保育ボランティアとして参加するなど園に携わる人たちを巻き込んでの関りを持てるような活動を行っています。メディアが便利になり、他との関わりが稀薄になりつつあり「孤立」することもある時代ですが、他と繋がり「共に」ということを大切に、園だけではなく、地域、社会

全体が『チーム』としての意識を持つことが大切なのではないかと思えます。これからの未来が争いのない平和な世界で子ども達が安心して幸せに暮らせるようになることを願ってやみません。

今年度の学校評価で見えてきた課題を踏まえ、次年度の研修の組み立てを行っていきたいと思えます。

今後とも皆様のより一層のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。最後になりましたが、大変お忙しい中、今回の評価にご協力頂きました保護者の皆様、評価委員の皆様方に対しまして、心より感謝を申し上げます。

令和6年1月

札幌大谷第二幼稚園  
園長 松田 志穂

## 札幌大谷第二幼稚園 / 認定こども園大谷オアシス保育園 学校評価

(始めに)

両園は今年度、共通テーマ「本園のチーム保育の考え方を知り、日々の保育に理解を深める」を元に実践を重ねてきた。保育園自己評価の「テーマの趣旨」に教師自身の「十分な自己発揮と他者の受容がより良いチームを築いていく・・・」と記されているようにひとり一人の教師が互いに良さを発揮し、尊重し合い、協力し合う関係でこそ園全体の教育力の向上につながる、という視点は重要である。

教師が明るく、互いを尊重し合い「子ども第一」の教育を目指す両園の姿は、チームとしての教師集団がこぞって、子ども達にとってよりよい環境であろうとする意志の表明と捉えることができる。

外部評価委員は、最終の評価委員会に於いて、両園から自己評価を聞き、質疑を重ねて評価項目の内容を確かめた。

☆ 両園が掲げる「チーム保育」とは「複数担任制とは異なり、役職や職種等の垣根なく園を一つのチームとして全教職員で全園児に関わる」という保育方針のことを指している。

## 札幌大谷第二幼稚園 学校評価

### 評価項目 I 「チーム保育」の考え方を理解する

幼稚園に入園させている親の多くは当園の「チーム保育」を理解し、これに魅力を感じて選んでいることが分かる。親からは「複数の先生が見守ってくれていることで安心感がある」職員間では「苦手をフォローし合える」「色々な先生と学び合える」など両者から共に評価が高い。

一方、評価委員会では園長より「人任せ」になってはいないか、「複数の保育者の目」が油断にならないか、等、高評価に対して自戒の言葉が聞かれ、さらに高い評価に高い評価に結びついた。

本項目の評価を A+ (エープラス) とする

### II 「チーム保育」に適した環境を整える

どの項目も保護者の満足度は大変高い。一方で教職員の約半数が「親とのコミュニケーションが十分でない」と考えている。親は、個々の子どもに関して「教職員は十分に教育して

くれており、教職員皆さんからそのことが伝わってくる」と考えていることから、教職員が自覚的に積極的に親とのコミュニケーションにおいて改善すれば、当園の教育活動をめぐる環境がさらに良くなると考えることができる。

委員からは教職員間のコミュニケーション、教職員と親のコミュニケーションのためには職員間の園内研修（OJT）や外部での OffJT の提案もあった。

また、委員会では個々の子どもの発達理解と情報共有に関して、当園の旧き実践であるカルテの活用なども提案・意見が出された。

いずれにせよ、親からの高い評価を踏まえて委員による評価は A（エー）とする

### Ⅲ 「チーム保育」による保育効果を高める

教職員間で「耳を傾け合い」「互いにフォローし合い」「自分の得意を発揮し合う」、これらが「できている」「そう思う」教職員の姿を「チームとして団結して取り組んでいる」「職員の個性が発揮され良いチームが形成されている」と多くの親が大変高く評価している。

当園には一人二人では無理なことも「チームとして個々の特性を生かして補完し合う」というチーム保育の理念が教職員間、そして教職員と親の間で定着してきていることが理解できる。

チーム保育で少し見えにくくなっている個々の子どもの発達変化の見取りについては旧き当園の実践にヒントがあるのではないかとの委員の意見もあった。

また、親からの記述意見の中に（3 - 10）子どもの様子を「教職員と話す機会が少ない」、「話ができている」という声が 18 件含まれていることの指摘をくださる委員もいた。

親からの高い評価と委員からの指摘や意見も踏まえ評価を A（エー）とする

（終わりに）

「1 クラス 1 担任制が主流の幼児教育環境の中で早くから『チーム保育』に取り組んできた当園には、保育者だけでなく園の職員や保護者も『チーム』として『子ども達を見守り、共に学び育ち合う』という願いがあった」。評価委員会に示された松田園長の最後の言葉に認められた思いと「これからの未来が争いのない平和な世界で子ども達が安心して幸せに暮らせるように・・・」と願う言葉に当園が開園以来求め続ける「理想の幼児教育」が読み取れる。

ICT が謳われ、インクルーシブ教育も問い直される時代に、人としての本質育てを見失うことなく、五感を通じた直接体験と育ち合いを掲げ続ける本園が、あえて大変な「チーム保育」に挑戦し続ける姿に、一部、厳しい指摘も行ったが、評価委員一同共感し、

総合評価を A (エー) とする

なお、両園共通で元会長の想いを記させていただく。

自分の子ども2人がお世話になっていた頃はお便り帳があり、月に1回、先生が交代で園での様子を書いてくれていた。それに対して保護者からの返信欄があり、私とその記載を担当していた。毎回全員保育でよくこれまで我が子のことを見ているなと感心していたので、毎月、大変感謝している旨返信していたことを覚えている。

子どもが大きく成長した今でも、親として、園への、先生方への感謝の気持ちは変わらない、そんなH委員の文を付記しました。